

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	次世代を担う産業人材育成事業	会計	一般会計	事業No.	501	施策順No.	12-026
		事業種別	政策・重点	予算科目	7-1-5-10-16		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	工業課		
施策	12 人材育成と企業、人材誘導	事業期間	開始	5	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市内の小、中、高校生						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		4年生以上の小学生:人		3122	3156	3168	3000	
		教室参加者数		157	155	160	160	
意図		ものづくりに興味を持ち、地域内の企業の魅力を知る。理工系への進学率を高める。地域内ものづくり企業への就職者が増える。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	楽しかったと感じた参加者の割合:%	95	95	95	95	100	95	A
	工業高校の地元就職率:%	24	24	26	25	37	25	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	子ども科学工作教室の満足度が100%だった。また、工業高校の地元就職率が大幅に上がった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	小学生から高校生までを対象にした人材育成事業。地域企業を知り、体験学習を通して、ものづくりなどの楽しさを感じてもらう。 ・子供科学工作教室 ・産業出前講座 ・ものづくり体験		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 子ども科学工作教室の開催(年4回:小学校4年生以上の小・中学生)美博と共催 (1)三極モーターを作って走らせよう (2)ソーラーカーを作って走らせよう (3)天体望遠鏡を作ろう (4)ロボットを作ろう 2 スーパーサイエンス事業の開催(教育委員会との連携) 3 飯田工業高校と工業界との連携事業 (1)インドアブレンフェスタin飯田の開催 (2)教育教材(インドアブレン)の開発	1 (1)工作教室開催数 (2)工作教室参加延べ人数 2 回数 3 参加人数	1(1) 4回 (2) 180人 2 3回 3 37人
23年度実施計画	1 子ども科学工作教室の開催(年4回:小学校4年生以上の小・中学生)美博と共催 (1)三極モーターを作って走らせよう (2)ソーラーカーを作って走らせよう (3)天体望遠鏡を作ろう (4)ロボットを作ろう 2 スーパーサイエンス事業の開催(教育委員会との連携) 3 産業出前講座の開催(小・中・高校での企業経営者や大学教授による授業) 4 飯田工業高校と工業界との連携事業 ・首都圏開催の産業展等への見学研修 ・教育教材(インドアブレン)の普及、インドアブレンフェスタin飯田開催支援 ・子どもものづくり教室の開催	1 (1)工作教室開催数 (2)工作教室参加延べ人数 2 回数 3 参加人数	1(1) 4回 (2) 150人 2 2回 3 30人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補正事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		1,000	565	862	
	計(A)		1,000	565	862	
	正規職員所要時間			80		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			286		
	トータルコスト A+B			851		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・飯田だけの問題として捉えず、飯伊という広域で相携え推進することが重要である(H20 産業経済委員会 決算認定提言書) ・長期的な取り組みとして教育施策との連携により取り組まれない(H20 産業経済委員会 決算認定提言書) ・人口流出を防ぐため、企業に地元学生が採用されるような人材教育を進めていくべきである。行政だけでなくあらゆる主体が意見交換をしながら協力して、企業が採用したくなるような人材を育てていく必要がある。(H22第5次飯田市基本構想基本計画推進委員会)
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域内の従業員、地域内の企業、人材を対象に ①事業活動改善する ②企業立地、起業・就職できる	施策の成果指標又はムトス指標	新規就業者数(新卒のみ)(人)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	・参加する子どもや指導に加わった高校生が、ものづくり体験を通じて楽しさや地元企業に興味を持つことにより、人材の確保に繋がってきた。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	・高校生に指導者として加わってもらい、地域内企業と関わる機会の増大に努めた。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	・教材については、地元企業から一部提供してもらっている。		
	後期に向けた課題	・工業高校と企業連携による新たな教材の開発を目指したい。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・参加者から負担いただいている。企業のCSR活動のサポートと教育の視点から市も全面的に協力してきた。		
	後期に向けた課題	・今後も負担を求める。企業のCSR活動をサポートと教育のする視点から、引き続き市も協力する必要がある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①子どもたちが、ものづくりの楽しさを学び、また地域内の企業がどんなことをしているのかを理解してもらおう。 ②行政は、企業と子どもたちを結びつける役割を果たしてきた。		
	後期に向けた課題	・子供たちにもものづくりを通じて、人とのコミュニケーションと働くことの重要性を学ぶ機会の提供をしていきたい。		
全体を通じて	4年間の振り返り	・平成22年度より、高校生を指導者として迎え入れたことは、多様な連携に結びつき、新しい事業も展開され、大きな成果に結びついた。		
	後期に向けた課題	・地元の中学生や高校生も参加できる高度なものづくり体験事業を企画していきたい。ものづくりの体験メニューについて、分野を広げるために新たな企業も巻き込んでいきたい。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------